

硬式野球部長野大会開幕直前特集 様々な人たちの思い乗せいざ選手権へ



第116号
発行
2024年
7月4日(木)
上田西高校
新聞委員会
編集局
編集局長: 田村さくら
新聞委員長: 金井 茉優
小林 さら
斎藤 慈生

座談会

岩下主将「長野大会連覇を目指す」

吹奏楽部応援担当湯本さん「グラウンドに追い風吹かす」

チアリーダー部部长佐藤さん「笑顔溢れる全力応援を」



硬式野球部の岩下俊輔主将(中央)、吹奏楽部の野球応援担当の湯本よつ葉さん(写真右)、チアリーダー部部长の佐藤雪路さん(写真左)

選手権記念大会成績

1回戦 上田西 3 - 8 土浦日大
(延長10回タイブレーク)

準々決勝 上田西 2 - 0 東海大諏訪
準決勝 上田西 3 - 0 ウェルネス長野
決勝 上田西 7 - 6 松商学園

昨年長野大会の成績

2回戦 上田西 9 - 2 伊弉弥生ヶ丘
3回戦 上田西 11 - 1 岩村田
4回戦 上田西 4 - 2 塩尻志学館

——インタビュー(新聞委員長金井 茉優)いよいよ選手権長野大会が迫ってきました。硬式野球部への注目度は高いですし吹奏楽部・チアリーダー部も年々パフォーマンスの質が上がってきていると思います。それぞれの今年の目標を教えてください。

岩下 今年の目標は大会連覇をすることです。

佐藤 笑顔あふれる全力応援を目指します。

湯本 グラウンドに追い風を吹かせます。

——ありがとうございます。岩下主将、連覇を目指している現在のチーム状況はどんな感じですか？

岩下 大会に向けて徐々に仕上がってきていると感じています。守備は、春に比べてスピードが出てきましたし、プレートの正確性も上がってきました。バッティングは、低く強い打球を打てる選手が増えてきています。試合では劣勢でも粘ることができるようになりました。

——順調に調整が進んでいるということですね。ところで湯本さん、「追い風」とは具体的にどのような意味でしょうか？

湯本 新しいチャンスアーマの「B Wind」の日本語訳が追い風という意味なのでそれとかけられています。私たちの演奏で選手の背中を押し追い風を吹かせます。

——昨年お披露目となったチャンスアーマは話題になりましたよね。やはり野球部から見ると吹奏楽部、チア部の応援は力になっていませんか？

岩下 そうですね。チア部の応援は統率がとれていてグラウンドから見ても笑顔で応援してくれているのがわかるので、プレーしている中で自分たちの支えになりますし力強い応援をいつもいつもしてくれているのでありがたいです。

佐藤 チア部では振りを全部覚えて、列など細かいところまで揃えることに拘っています。選手たちがチアをちよつとでも見てもっとやる気ができるように、みんなで笑顔を絶やさないことを意識しています。まずはスタンドからそういった空気を作って波に乗って勝ってくれば良いなと思っています。それが伝わっているなら嬉しいです。

岩下 チア部もそうですが吹奏楽部も本当に暑い中長時間応援してくれていて素晴らしい音でスタンドを奏でてくれています。プレー中も当然演奏は聞かれていますので、それが大きな力になっています。県内ではトップだと思っパフォーマンスは選手全員のものになっていきますし、キャプテンとしても心強く思います。

湯本 いつも忙しい中短時間の練習時間での応援の曲を完成させるのは大変ですが、野球部に勝ち進んでほしいので一生懸命練習しています。本番は暑いし大変だけど、なによりも見ていて楽しいのでこつこつと頑張りたいです。

——ありがとうございます。吹奏楽部、チア部、とお互いはいかに存在していますか？

湯本 チア部の存在は私たちの応援に華を添えてくれるので、とても頼りになります。

佐藤 吹奏楽部の曲が入るだけで一気に私達の空気が明るく盛り上がり、自然と笑顔になり、応援にも力が入ります。野球部と吹奏楽部の一体感がでると本当に一緒に応援ができて楽しいです。

——応援で学校が一つになりますよね。新聞委員会としても野球部の皆さんの活躍を新聞や写真撮影という形で発信することで地域や校内の応援ムードを高めたいです。それでは岩下主将、最後に応援している生徒、保護者、地域の人たちにメッセージをお願いします。

岩下 全県野球で一戦必勝夏の目標の連覇が達成できるように頑張るので、「試合一試合アーン」の応援をよろしくお願いします。

交流戦 VS 佐久長聖 上田西が勝利 終盤に打線爆発 投手陣も踏ん張る



交流戦フォトギャラリー 中盤まで競った試合は一進一退の攻防が続いたが終盤に上田西が猛攻を仕掛け、佐久長聖を突き放した



上田西	1
佐久長聖	0
	0
	0
	2
	1
	1
	0
	0
	0
	4
	4
	0
	0
	4
	12

6月27日(木)に毎年恒例の佐久長聖高校との交流戦が行われ、終盤得点を重ねた上田西が12-4で勝利した。上田西の吉崎琢磨監督は、夏の「初戦」と位置付けた今回の試合を「いい方向に気持ちを持っていくことができたのに加え準備したものを出し切れて、尚且つ結果を出せたため言うことはない」と振り返った。この試合で鍵となったのは背番号1を背負った野村颯太(進学3年)と背番号3の谷口健太(進学3年)と背番号4の上田西(進学3年)だ。吉崎監督は野村の投球について「気持ちもボールも気合が入っていてそれが投球に表れていた」と話し、「野村の投球でリズムができたから序盤に点数が入ったと思う」と続けた。谷口のバッティングについては「最初に谷口がいい打球を飛ばしたことで次に繋がっていった」と評価した。

メンバー入りをかけた最後のアップルの機会となった今試合。試合に勝利し涙を流す選手たちを間近で見た吉崎監督は「もう一度勝って嬉し涙を流せるようにその想いを繋げてほしい」と選手権長野大会での奮起を促した。

硬式野球部は、昨年の選手権記念長野大会優勝に続き、連覇を目標にして1年

上田西 VS 松本大

高校生対大学生交流試合 昨年度卒業の滝沢好投

6月13日(木)に長野県野球協会主催の第3回高校生対大学生交流試合が県営上田野球場で行われ、秋の県王者上田西と関甲新学生リーグ1部に所属する松本大学が対戦した。この交流試合は高校生と大学生の真剣勝負を通して、長野県の高校野球の競技力向上に寄与することを目的としている。

上田西の吉崎監督は、大学生が相手ということでもハリハリのある声かけや具体的な選手への指示に注目したという。「自分の力量を把握して、プレーに對する



先発し3回無失点と好投した松本大の滝沢

間練習を続けてきた。しかし、夏の大会を直前に控えた現在は「連覇」という目標をあえて前面に押し出していないそうだ。一戦一戦の準備と勝ち抜くことを大切に、「負けちゃいけない」といつ気持ちはではなく「気持ちを入れて挑戦エッジイできるよ」という目標を掲げた。また、「その先に勝利という結果をチームに持って来れるように」と意気込んだ。

岩下俊輔主将(進学3年)は、「大会が近くにつれて1つのプレーや1球に対する思いが強くなり雰囲気も良くなってきている」と現在のチーム状況を話す。しかし、「まだまだプレーや細かい部分の準備が必要」と気を引き締めた。連覇がかかる上田西の初戦は7日(日)14時から県営上田野球場で行われ、松本国際高校と対戦する。

(金井 茉優)

野球部員にとっては、共に戦った先輩が対戦相手にいるということでもいつもと違った緊張感があったはずだ。吉崎監督は「滝沢も緊張している様子だったが、滝沢の成長を見ながら知っている先輩に対してどう準備をするのか見ることができていい経験になった」と話した。試合は1点を争う熱戦の末松本大学が3-2で勝利した。(金井 茉優)